

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分が住みたいホーム、自分の家族を住ませたいホームを理念として研修の機会を使って取締役から話をする時間を作っている。現場の行動も常に理念に基づいて動くように心掛けている。	法人理念「自分が住みたいホーム、自分の家族を住ませたいホーム」の実現に向けて日々の支援を実践しています。職員は実際のケアの場面でも自分の家族であればどう対応するか、という視点で行動しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに積極的に参加している。ご利用者様が地域の中でいっしょに生活している事が実感できるようにしている。	町会に参加し、イベント部の実行委員として夏祭りの、神輿を出すなどの企画、運営に参加しています。駐車場を神輿の休憩所として提供し、利用者も楽しみにしています。また、民謡ボランティアの訪問も受けてます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて地域の方のホームに関するご意見や認知症に関する情報の交換をする事で地域の方々へ理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場でホームの活動報告等を行い沢山のご意見を聞いたり、地域のイベントにも参加するなどして現場のサービスに活かしている。	会議には町会長などのほか、近くの老人ホーム役員の出席もあります。役員はそこでの夏祭りのみこしの話に共感して参加してくれ、更にその利用者も夏祭りに参加する、というようになりました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当部署(生活支援課・介護保険課、他)とは細かいことでも報告させていただき、密に連絡をとっております。	生活支援課とは生保受給者の関係で介護の消耗品やその他経済的な事項で連絡を取る機会は多くあります。しかし市から事業所に来ることは多くありません。介護保険課とは一般的な事項について連絡するほか入居条件の困難な案件について相談、指導を受けることがあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルや社内の研修を通じてスタッフに伝え、日中の施錠はしないようにしている。(防犯の観点から日没後に施錠するようにしている)	身体拘束マニュアルやユーチューブを材料とした研修を行い意識の徹底を図っています。センサーを設置して玄関には施錠していません。支援のなかで拘束なのか曖昧な事例が出たときは検討会議を開き慎重に対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアルや社内の研修を通じてスタッフに伝え、スタッフ同士で介護に迷ってもそれが虐待に繋がらないかなど、その場か会議の場で話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されてるかたが1名いらっしゃいますが、別の方でも検討されてる方がいます。必要なことは提案させていただきます。と思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族様(キーパーソン)に説明はさせて頂いております。その後も質疑等には丁寧に回答するようにさせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からのご意見や匿名での意見(意見箱)などを集め、会議等をつかってご説明し運営に反映させております。	家族は来所時に面談して意見要望を聞いています。意見を出さない方来所しない方も多く、いかに関係性を構築していくかが課題です。一部の家族とですがラインの輪を作り、利用者の外出時の写真を送るなどして関係性を維持することを試みています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送り等の時間を使ってスタッフからの意見をヒアリングし、運営に反映させています。	全体会議等で出された職員の意見でプライベート空間のある休憩室が設置されました。職員の意向を的確に把握できるように、管理者はスタッフの一員として一緒に利用者を支援してコミュニケーションをとっています。年に一度本社と職員の個別面談が実施されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフの得意とすることや不得意な事を見極めて、それぞれが活躍出来る場面や場所をみつけて仕事に楽しみを持てる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な研修や社外の研修の案内などを通じて各スタッフがトレーニング出来る様な環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社の運営推進会議に同業者様の参加をお願いしたり、こちらから同業者さまの会議に参加したりお互いで切磋琢磨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居にあたって不安の多いご利用者様が殆どなので、丁寧に話を聞きご家族様のご協力のもと安心して生活出来る環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居後もご家族様とお話しをしてご要望や困っている事など管理者が中心になって解決出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントで良く話をきいたり、ご本人様だけでなくご家族様のご意見にも配慮し、最適なサービスがグループホームなのか見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様がどのような生活をしたいのか伺い活躍出来る場をみつけている。スタッフと一緒に家事等を行うことでお互いの信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは密に連絡をとり、一緒にご本人様を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もお友達や知人、ご家族様とも連絡が取れるようにして、ホームのイベントにも積極的に参加していただけるようにしている。	携帯電話をかけたり、かかりつけの美容院に通っている方もいます。また、高校時代の友人が多勢で訪問してくれた例(男性)もあります。その他家族、友人が来てくれることがあります。継続して来所してくれるよう丁寧な対応をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事のないようにスタッフが間に入ってお話したりレクに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様のご要望に応じて、ご相談させていただいたり、ホームでのイベントにも参加いただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の仕草や言動から思いや意向を汲み取り、スタッフ間で共有する事で常にご利用者様本位の介護ができるようにしている。	利用者の日常の会話など職員が集めた情報から思い、意向をくみ取るようにしています。入所前趣味でフルートをやっていた利用者の場合、自宅から楽器を持参して練習を始めた例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントからご本人様のこれまでの生活や趣味嗜好を知ったうえでケアプランを作ってスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく生活のリズムを掴み、スタッフ間共有することでその方の現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間だけでなくご家族様とも情報の交換をしたうえでケアプランを作成して、その後モニタリングもスタッフ間で共有できるようにしている。	ケアプランはスタッフのほか家族の意見も聞くようにしていますが、家族からの積極的な意見を聞くことは多くありません。スタッフは利用者の情報を介護ソフト「ほのぼの」を大いに利用し共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人様に変化や体調不良による入院等があった時にはスタッフ間で話し合い内容を見直すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合は通院や買い物などこちらで付き添って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内の公園にお散歩に行ったり町内のお祭りに参加出来る場所を提供できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が定期的に往診に来ている。ご家族様やご本人様のご要望で他院へ通院出来るよう支援している。	協力医療機関による訪問診察を月2回行っています。入所時に訪問医師による診察を必ずしも受けなくても良いが受けないことによるリスクも説明しています。利用者、家族がかかりつけ医院を希望する場合は事業所も出来る限りの支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と相談や情報の交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には必ず介護サマリーを作成し医療機関に情報の提供をしている。また医師からの説明がある時にはご家族様一緒に同席させて頂いてご本人様にとって良い対応が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針の説明を必ず入居時に行っている。実際に看取り開始時にはもう一度丁寧な説明とご家族様の気持ちに配慮した対応が出来るようにしている。	重度化した場合や終末期にはいった場合、利用者、家族の気持ちに配慮した、看取り介護の具体的な支援の内容、具体的な方法を利用者、家族に説明した上で意思確認を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にご協力を依頼して、年に一回「応急手当やAEDの使用法」の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震を想定して年二回の避難訓練を行っている。消火器の位置の確認やその場のスタッフの役割を確認している。	毎年訓練はやっていますが、今年度は3月末に第2回目を実施する予定です。事業所が実施の主体になっているので、消防署はそれに意見を言う程度です。地域の方は駐車場に避難した利用者を見守るという協力の約束ができています。	毎年実施しているという訓練の記録の整理、保管が不十分に思われます。管理者、職員の交代に備え、記録の管理は重要です。十分な管理を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のプライベート空間の確保や羞恥心に配慮した入浴・排泄の介護を行うように心掛けている。	人格を尊重し、自尊心を傷つけない言葉かけや日常的な会話に気を使い日々支援しています。入浴介護、排泄介護を行うときは、利用者のプライバシー、羞恥心を配慮した介護を行うことを周知徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には声をかけて本人の希望を最優先に物事を考えるようにしている。自己決定難しい方でもいくつかの選択肢を用意するなどの工夫をして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームはあくまでもご利用者様の自宅なので、こちらの型にはめ過ぎない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃り、洋服選びも出来るだけご自身で選択してできる環境にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんの食事の好みを把握して順番に食べたい物が食べれるようにしている。食事の準備もスタッフだけで完結せず一緒に参加してもらっている。	利用者が何を食べたいか毎日の会話のなかで拾いあげた情報を基に、献立を利用者と共に決めて一緒に作っています。事業所前の駐車場を利用して流しそうめん、バーベキュー等を屋外で食べピクニックの雰囲気を楽しんでもらう等、食でも季節を感じられる支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の量なども確認してバランス良く摂取できる環境を作っている。買い物にも参加していただき、同じ食材ばかりにならないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声をかけて歯磨きして頂くようにしている。ご利用者様の状態によってはガーゼを使用したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一度の失敗でオムツを使用するのではなく、排泄パターンを把握して出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。	職員は、利用者がトイレで排泄することは自然の事と認識し、布パンツで過ごせる支援の継続を行っています。利用者のプライバシーを守り自尊心を傷つけないようにトイレでの排泄の自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材用の工夫や適度の運動、水分補給など薬だけに頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯の希望などを聞いて出来るだけ本人が入るようになるような声掛けをしている。	浴槽は個浴で利用者は職員と会話を楽しみながら入浴しています。利用者の希望する時間帯を考慮して週三回入浴を楽しむ支援をしています。女性の利用者には羞恥心を汲み取り同性の職員で対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かに眠れるような環境を作ったり、寂しがりの方にはスタッフが眠くなるまで話をしたりなどの環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と薬にかんして十分に情報を交換して、服薬後の症状の変化を見逃さない様にする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事をみつけて無理のないように手伝っていただき生き活きとした生活が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様やご本人様のご希望に沿って外出の支援をさせて頂いている。ご家族様のご協力も頂いて普段行けないような所(外食)などにもでかけられるようにしている。	日常的に施設の周りを散歩し、季節感を感じられる支援をしています。また食材を買いにスーパーマーケットに行き買い物の楽しさも味わってもらっています。季節の良い時はご家族の協力で遠くに行く支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身の買い物時には出来るだけご本人でお支払いをして頂くように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話やお手紙のやり取りが出来るように支援している。個人的に携帯電話を保有している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に合わせて照明や室温の調整をして居心地の良い空間をつくるようにしている。季節毎の飾りなども意識している。	共有の空間は利用者の安全な動線を確保した工夫が見て取れました。廊下の周りには手すりが設置され、利用者は職員と一緒につまり体操している様子が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを設置してどなたでも利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に既に使用していた家具や寝具などを持ち込んで頂けるように説明させていただいている。また設置に関してもご本人やご家族様と相談して好みの配置にしている。	入居時に今まで使用していたものを持ち込んでいただけるように説明しています。居室は利用者、家族の望んでいるようにすることを基本に置き、施設側は介入しすぎないように気を付けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方の出来る事を見極め自信を持って生活出来るように支援させて頂いている。		